



大仙市の発酵文化発信プロジェクト

地域社会コース 3 年次 伊藤千穂

益満ゼミナールでは昨年度に引き続き、シティプロモーションの一環として、大仙市農林部さん・広報広聴課さんと大仙市の 5 つの酒蔵とタッグを組み、大仙市の日本酒の魅力を PR するプロジェクトに参加しています。今年度からは広報活動のみならず、オリジナル日本酒である「宵の星々」の日本酒造りに学生が酒米づくりから携わり、販売活動まで行うことになりました。今回はその活動について紹介します。

まず、4 月に 4 年次のゼミ生が酒米の種まき作業に参加しました。秋田清酒株式会社さんにご協力いただき、出羽鶴酒造さんの田んぼで「美郷錦」という品種の酒米を植えました。種まき専用の機械を使用し、ベルトコンベアに育苗箱を乗せて作業しました。その後、スチーム発芽機にセットするまでを行いました。育苗箱は重く、非常に力のある作業でした。

続いて、5 月に酒米の田植えを行いました。4 月に植えた酒米の種は、約 1 ヶ月半で手のひら位の苗に成長していました。その苗が植えられている育苗箱の運搬や移し替え作業、田んぼの中に入って均し作業をしました。そして、田植え機の運転もさせていただきました。全員初めての体験だったため苦戦しつつも、秋田清酒株式会社の方々にご教示いただきながら真っ直ぐ植えることができました。



6 月に行われた草刈りからは、3 年次のゼミ生 6 名が参加しました。田んぼの草刈りは、稲に害虫を寄せ付けないための大切な作業です。鎌で手刈りをしたり、草刈り機を使用したりと、気温が上昇する中での慣れない作業でしたが、酒米が丈夫に育つようと全員で集中して取り組みました。刈った後、山積みになった雑草からは達成感が得られました。

学生である私たちが酒米づくりや田んぼの環境整備に携わることで、日本酒のカギとなる酒米へのこだわりや日本酒造りの奥深さを実感し、日本酒の魅力を発信する立場として、気が引き締められました。

また、私たちの活動を秋田ケーブルテレビさん、FM はなびさんで紹介させていただきました。



こちらではシティプロモーションの概要から私たちの活動まで、様々なお話しをしています。さらに、東京都在住のシンガーソングライターriroxさんから、「宵の星々」のテーマソングを提供いただきました。このように多くの方々から私たちの活動に注目していただき、日本酒の完成を楽しみにしているとお言葉もたくさんいただきました。多くの方に知っていただけることはとても嬉しく、励みとなっています。

地域社会コース3年次 進藤佳音

次に、9月下旬からの活動を紹介いたします。

まず私たちは、酒米の稲刈りを体験させていただきました。私は、手刈りとコンバインでの作業、どちらも経験させていただきました。手刈りは、コンバインの動線を確認するために田んぼの4隅を刈り取る作業です。中腰での作業のため大変でしたが、一つひとつのお米と向き合っているような感覚があり愛着が湧きました。コンバインの運転は、ゼミ生全員が初めての経験でした。最初は緊張しましたが、農家さんが丁寧に操作方法を教えて下さったため、楽しく稲刈りを行うことができました。方向やスピードの調節など難しい操縦を淡々とこなし、広大な田んぼの稲刈りをする農家さんの姿には心を打たれました。このような貴重な体験をさせていただき、より一層今後の活動に身が入るとともに、収穫したお米がお酒になる日が非常に楽しみになりました。



私たちは、大仙市の日本酒の魅力をもっと多くの人に知ってもらうために、大仙市の広報広聴課さんとも協力をしています。ゼミ生それぞれが日本酒に合う料理を考え、そのレシピを大仙市の市報「だいせん日和」に掲載中です。マーケティングの講義で学んだことを生かしつつ、女子学生ならではの視点で考えました。また、ただレシピを考えるだけではなく、秋田清酒株式会社の伊藤社長のお子様のご指導の下、実際に料理を作りました。味はもちろん、使う素材や見た目のデザインなどにもこだわり、日本酒の良さを際立たせる6品の美味しい料理が出来上がりました。

これまで様々なメディアに出演させていただいたり、SNSで情報を発信したりと、私たちの活動や大仙市について幅広く周知活動を行ってきました。その一部として、FMはなびさんご協力の下、見学・取材を行った大仙市の5つの酒蔵について紹介する動画をYouTubeで公開することになりました。

した。番組名は、「秋田大学益満ゼミ presents ノメバミヤコ」です。動画では、酒蔵見学の様子や取材の内容、ゼミ生がお酒を飲んだ感想などを紹介しています。シンガーソングライターのriroxさんに提供していただいた楽曲も使用されているので、注目してください。この動画は、FMはなびのHPのトップページから、またはYouTubeの「FMはなびTV」というチャンネルから見ることができます。

これらの活動を通して、酒蔵の方々や米農家さん、地元メディアの方々など、地域全体で大仙市の日本酒を盛り上げていこうとする意志や愛情が感じられました。私たちもお酒造りに携わることでこれまでの日本酒のイメージが良い意味で覆されたので、このことをより多くの人に発信していきたいです。



12/27 今シーズン初めての大雪となりました

特別支援教育コースでの学び

特別支援教育コース 3年次 棟方のぞみ

特別支援教育コースでは、特別支援学校教諭を中心に教員免許取得を目指します。まず、主免として小学校教諭か中学校教諭の免許を選択します。副免として、これらの他に幼稚園教諭、高等学校教諭の免許を取得でき、保育士や学校図書館司書教諭、社会教育主事など、将来の選択を広げるための勉強をすることもできます。

私は主免で小学校教諭を選択しているため、小学校主免の学びについて紹介します。特別支援教育については1年次から4年間学んでいきます。1年次は、必修科目である基礎教育科目や初等科目などを学びます。2年次からは、副免の科目を専門的に学んでいきます。そして、秋田大学教育文化学部附属小学校での教育実習があります。3年次から研究室に配属されます。自分の興味のある特別支援の分野について深く学ぶことができる研究室や、学び方が自分に合っている研究室を選びます。そこで卒業研究に向けて研究室の先生や先輩、同級生たちと考えを深めていきます。周りの意見を聞くことができる貴重な時間です。夏休みには公立小学校での実習と附属特別支援学校での実習があります。大変なようにも思われますが、実際に子どもたちとかかわることで多くのことを学びました。教師のやりがいも感じられた充実した期間でした。4年次は教員採用試験の受験と卒業論文の作成です。附属中学校での副免実習もあります。

私が感じる特別支援教育コースの一番の魅力は、仲が良いことです。同学年はもちろん、先輩・後輩ともかかわりやすいです。自習室では1~4年次が混ざって話している場面がよく見られます。また、コースでの行事がたくさんあります。この二年間は新型コロナウイルスの影響で開催されないものが多いですが、新入生歓迎会やスポーツ祭、秋大祭でのお団子販売、特研旅行など楽しい行事ばかりです。

ここでは紹介しきれない程、魅力あるコースです。少しでも皆様に伝わっていると嬉しいです。



令和元年度
の特研旅行→

←入学式後の
集合写真



特別支援教育コース 3年次 伊東大樹

特別支援教育コースでは、障害のある子ども一人一人に合わせた教育を行えるように勉強します。そんな特別支援教育コースでの学びについて、実習に焦点を当てて紹介します。

特別支援教育コースでは、取得を希望する免許に合わせて、保育園、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校など様々な実習の機会があります。私が特に印象に残っているのは、特別支援学校での実習です。特別支援学校での実習では、生徒が主体的に学習するための工夫について多く学びました。生徒が製品作りを通して、働く意欲を高め、働く技術を身につける作業学習では、教師が「今日、何枚のコースターを作ったのか数えてみよう！」と言葉掛けをして、1日で作った製品の数を一緒に数えたり、製品作りに集中している姿をタブレットで撮って見せたり、作業学習の終わりの会で生徒一人一人が成果を発表する機会を設けたりすることで、生徒が成果や頑張りを実感できる機会が積極的に設けられていました。さらに、生徒が製品作りで失敗をした際は、教師から失敗を指摘するのではなく、手本の物と見比べさせることで、生徒が主体となって改善すべき点やどのように改善するのかを考えることにつながること学びました。特別支援学校の先生方の、指導をしているときの眼差しからは真剣さや熱い情熱が伝わってきて、「自分も確かな指導力や知識、熱い情熱をもって、一人一人の児童・生徒に向き合えるような教師になりたい！」と強く思えるような実習でした。また、一人一人の児童・生徒に時間をかけて向き合えるという特別支援学校の教員の魅力を発見する機会にもなりました。このように、実習では、大学の座学では学べない実践的なことを多く学ぶことができました。特別支援教育コースでは、実習の他にも障害のある方の余暇活動を支援するボランティアなど、大学での座学で学んだことを活かせる場、座学では学べないことを学べる場がたくさんあります。

これからも、大学で学んだことを子どもとの関わりで生かすこと、子どもに関わった経験から大学での学びを深めることを通して、理想の教師像に近づけるように頑張りたいです。

11/29 附属小学校オープン研修会を実施

附属小学校の令和3年度のオープン研修会が11月29日（月）に実施されました。授業提示は、一週間前の11月22日（月）に実施されました。2つの授業が提起され、一つは特別活動で、単元名は「5A 笑顔集会を開こう」、授業者は村上宙思教諭、対象学級は5年A組でした。もう一つは総合的な学習の時間で、単元名は「きらり みんなの笑顔があふれるまちⅡ」、授業者は渡部和朝教諭、対象学級は4年B組でした。

特別活動の授業の目的は、「議題の趣旨を正しく捉え、論点に沿った発言を重ねながら意思決定をするという資質・能力を育てる」ことです。そのための方策として、「様々な意見を全体で共有した視点で比べ、論点との整合性を考えて話し合う『見方・考え方』を、活動全体を通して働かせる」指導の工夫を試みました。



一方の総合的な学習の時間の目的は、「人は皆、大小問わず困難を抱えており、それを乗り越えようと、互いを思い、支え合って生きていくという意味で対等な存在である」という考えを持てることです。そのための方策として、「自分と相手の思いの違いに着目し、得意なことや安心する関わ



附属小学校長 外池 智
り合いについての共通点を踏まえながら、共に活動するためのよりよい方法を見いだすという『見方・考え方』の工夫を試みました。

研修会では、Zoomでの外部参加者が30名で、福島県、青森県、埼玉県等、県外からの参加者もありました。職員の参加者は24名であり、合わせて54名で充実した意見交換が行われました。研究協力者は、特別活動では鈴木翔准教授、総合的な学習の時間では細川和仁准教授であり、総括のコメントをいただきました。



12/27の旭水苑と60周年記念ホール



11/30 附属幼稚園 秋の保育研究会・講演会を実施

こども発達・特別支援講座 保坂和貴

11月30日に附属幼稚園秋の保育研究会・講演会をZoomにより実施しました。玉川大学教授岩田恵子先生を講師にお招きし、秋田県内外から総勢82名が参加しました。

第Ⅰ部では「思いをつなぐ保育者のかかわり」と題し、こども発達・特別支援コース山名裕子先生の司会のもと、附属幼稚園各クラス担任の教員と岩田先生とでカンファレンスを行いました。本年度は「遊びの中で育つかかわり」という研究主題の初年度として「かかわりを支える保育者」をテーマに保育を進めています。日々の保育のなかで繰り広げられる遊び、そのなかでの子どものさまざまな環境、ものや人とのかかわり、そこで「育ち」をどのように読み取り、またどのように支援援助していくのか、各担任の先生からは現在の子どもの姿や保育の難しさなど写真をもとに話題提供いただきました。岩田先生からは、それぞれの写真から読み取れる活動の面白さやそこで子ども理解のあり方などコメントしていただきました。子どものことや子どもたちが展開している活動を肯定的に受け止めかかわることの大切さを改めて学ぶことができました。

第Ⅱ部では岩田先生より「遊びの中の「かかわり」をどうみるか」と題した講演が行われました。保育をとらえる際の理論的な枠組みである「二人称アプローチ」についてご講義いただくとともに、現在岩田先生が進められている研究、写真を用いた「ドキュメンテーション」の方法について、事例を交えて紹介いただきました。ある園で子どもたちの活動を写真に収め積み重ねていくうちに、



それを保護者の連絡帳に用いたり、遊びのコーナーに貼ってみたり、そうやって子どもたちの遊びのプロセスを写真によって「見える化」したことで、保育者の子ども理解もさることながら、保護者にとっても子どもたちがしていることがわかるようになり、また子どもにとっても自分の活動を振り返ってとらえる機会になったり、よい変化が生み出されたとのことでした。なかなか目に見えない「かかわり」を、写真を記録として用いることで、子どもだけでなく子どもを取り巻く保育者や保護者の理解も深まり保育のコミュニティそのものが育っていく過程は、附属幼稚園の保育実践を進めていくうえでも大きな示唆を得ることができるものとなりました。

モノのかかわり場面

保育者から見ると...

一人称的見方
「自分もこんなことした。
水とテーブルの感触気持ちいいわよね」
「自分には何が面白いかわからないわ」

三人称的見方
「4歳の遊びとしては、ベンキ屋さんの見立てがあって、そのイメージも仲間と共有されていて、よい遊びね。でも、お片づけの時間なのに、きりかえられないのね」

二人称的見方
「このテーブル、水を塗ると本当にベンキをぬったみたいになるのね！面白い！」
「〇くんが発見、すごい！」
「〇くんが気づいた面白いことに、
□ちゃんも、■ちゃんもおもしろがってる！」

保育者も対象、子どもについて「発見」する

12/16 学生協議会学生委員と学部長との懇談会を実施

No.	所属委員会等	氏名	摘要	
1	学部長が指名する学部長補佐	臼木 智昭	要項第3条第1号委員(議長)	
2	FD推進委員長	林 正彦	要項第3条第2号委員	
3	教務学生委員長	大橋 純一	要項第3条第3号委員	
4	学務委員長	石沢 真貴	要項第3条第4号委員	
5	広報委員長	林 良雄	要項第3条第5号委員	
6	その他議長が必要と認める者	—	要項第3条第11号委員	
7	学務担当総括主査又は主査	長谷川 寛子	要項第3条第6号委員	
8	教育文化学部事務局	鎌田 夏帆	事務陪席	
学生委員				
N	学科・コース	学	氏名	フリガナ
1	教育実践コース	1	相馬 慈	ソウマ イツム
2	英語教育コース	1	長谷部 ひなた	ハセベ ヒナタ
3	理数教育コース	1	伊藤 彩花	イトウ アヤカ
4	特別支援教育コース	1	藤原 宙詩	フジワラ チュウタ
5	こども発達コース	1	藤井 夏凜	フジイ カリン
6	地域文化学科	1	後藤 実央	ゴトウ ミオ
7	地域文化学科	1	佐藤 颯	サトウ ハヤテ
8	地域文化学科	1	高橋 優哉	タカハシ ユウヤ
9	地域文化学科	1	沼倉 大真	ヌマクラ ダイジン
10	教育実践コース	2	仁村 真由香	ニムラ マユカ
11	英語教育コース	2	近藤 聖真	コンドウ セイマ
12	理数教育コース	2	山崎 天誠	ヤマザキ テンセイ
13	特別支援教育コース	2	田口 陽介	タグチ ヨウスケ
14	こども発達コース	2	加藤 杏奈	カトウ アンナ
15	地域社会コース	2	福士 藍	フクシ ラン
16	国際文化コース	2	副代表 大野 まみ	オノ マミ
17	国際文化コース	2	草刈 優希奈	クサワケ ユキナ
18	心理実践コース	2	有原 希乃	アリハラ カノ
19	教育実践コース	3	松淵 朗子	マツブチ サエコ
20	英語教育コース	3	米屋 千陽	ヨネヤ チハル
21	理数教育コース	3	三浦 慧斗	ミウラ ケイト
22	特別支援教育コース	3	佐々木 隆志	ササキ タカシ
23	こども発達コース	3	三浦 有紗	ミウラ アリサ
24	地域社会コース	3	代表 高橋 元氣	タカハシ ゲンキ
25	国際文化コース	3	須藤 奏	ストウ カナ
26	心理実践コース	3	田中 悠登	タナカ ユウト
27	心理教育実践専攻	院1	黒木 雪乃	クロキ ユキノ
28	教職実践専攻	院1	佐々木 健真	ササキ ケンシン

12月16日木曜16:30~18:10、Zoomにより学生協議会の第1回目を開催するとともに、学部長と学生委員との懇談会を実施しました。2014年度に発足した学生協議会は、毎年メンバーが交替して、今回第8期となりました。17名の参加があり、学生からの要望として、以下のようなことが出されました。

○コロナの影響による日程変更、PCR検査の要請など、早めに知らせてほしい。

→感染状況により、教育実習の日程が変更になったり、急遽PCR検査を求められたりと、大変であったと思う。いずれも受け入れ校あってのこと(PCR検査も、教育委員会から急な要請があったもの)であることをご理解いただきたい。次年度の感染症対策を検討中。急な要望とならないよう、先んじて対応したい。

○自習室の使用ルールやその変更が学生に知らされていない。

→感染対策としての学年制限は撤廃したが、コースによって運用が異なるため、コース主任の先生へ確認し、学生に周知するよう伝える。

○対面授業が望ましい。遠隔だと友達ができにくい。キャンパス、教室の配置も分からない。

○対面と遠隔が1日の時間割で混在していると、切り替えが難しい。

○遠隔授業ばかりのときは、1日で3~4コマ長時間PCを見続けることとなり、目が疲れていた。

○昨年度に比べて、遠隔授業が改善されてきた。Zoomの進行がスムーズになり、課題の提出方法がwebclassに統一されてわかりやすくなった。

○遠隔では出される課題が多い。授業時間外の拘束時間が長い。課題の締め切り日が土日に設定されており、土日なのに休めない。

→昨年度、オンデマンド授業で時間割の授業時間内に課題提出を求められることがあり、教員に改善を求めた。今回も教員に注意喚起する。

○サークルや課外活動で、外部イベントに参加する際、現在許可制となっているが、会議での審議がイベントの直前すぎて、実質参加するなどしているように感じる。また、直前に不許可になっても困る。

→コロナ会議での審議は感染状況を考慮する必要があるため、あまり先んじて許可を出すことは難しい。

○空き教室の把握が難しい。昨年度も伝えたが、もう少し簡単に利用教室が確認できるようにしてほしい。

→技術的な問題もあり、アネットの空き教室のページ以上には対応が難しい。

○現在、教室の1m2m定員が撤廃されたので、座席番号がないところに座っている。空き時間での利用時には、入退室記録をしているが、座席番号記入欄は不要ではないか。

→感染状況が落ち着いていることと、これから入試で教室を使用する機会が増えるため、掲示物・座席札について、見直したい。入退室記録の作成は全学ルールのため、急な撤廃は難しい。

○地域連携ゼミと特定地域研究ゼミ、3年次にいずれか選択することとなっているが、地域連携ゼミは2年次から説明会があるのに、特定地域研究ゼミの情報が乏しく、両者を比較検討できないため、選択しづらい。

→以前は、同時期に説明会を開催していた経緯がある。学科で検討する。

○情報統括センターのPC実習室は使用できるようになったのに、なぜプリンタが使用できないのか。図書館はPCも使用できない。自宅にプリンタ

がない学生も多く、授業に関する印刷物もコンビニまで行って印刷している状態が続いている。
→情報統括センター等に要望をあげておく。
○教員の連絡先のメールアドレスが分かるようにして欲しい。所属学科ではガイダンスの際にメールアドレス一覧を配付しているが、所属外の先生の連絡先が分からず困ることがある。
→「開設講義」や「シラバス」には内線番号の欄のみで、先生によっては、シラバスのオフィスア

ワーにメールアドレスを掲載している。アドレス一覧を学生が見られるようにできるか検討する。
○子ども発達の自習室のWi-FiがPC画面に「セキュリティの低い接続です」と表示され、調べ物などができない。スマホがWi-Fiにつながらない。
→コース主任に伝える。
○大学院生室のWi-Fiの調子が悪い。Zoomが途中で固まったりする。
→専攻長に伝える。

【卒業生からのメッセージ⑦】

農業振興普及課での仕事と大学での学び

秋田県北秋田地域振興局農林部農業振興普及課企画・振興班 児玉 佳乃子（2019年3月地域社会コース卒業）

秋田大学を卒業してから早いもので3年が経とうとしています。私は卒業後、秋田県の出先機関である北秋田地域振興局農林部に配属され、これまで農政業務に携わってきました。農業に関する知識も全くなく、初めて知ることばかりで、配属当初はどうしたものかと悩むこともありました。そんな中、今日まで無事に勤めることができたのは、職場の方々の助けがあったのはもちろんですが、秋田大学で学んだことが私の支えとなっていたからだと思います。

私は2015年に教育文化学部地域文化学科に入学しました。自分で埋めていく時間割、様々な講義が載ったシラバスを見て、とてもワクワクしたのを覚えています。

そんな自由な学びの場で、今の私の糧となったと感じていることは主に2つあります。

一つ目は、交換留学です。私は大学3年次に半年間台湾へ留学しました。恥ずかしながら留学当初はほぼ中国語が分かりませんでした。ですが、台湾だけでなく韓国、ベトナムなど多国籍なクラスメイトと一緒に旅行するまで仲良くなれました。慣れない環境で、現地の言語が分からない中でも、充実した台湾生活を送れた経験は私の自信となっています。

仕事の中で農業の専門用語が出てきたり、農業の知識が必要となり、業務の難しさをよく感じます。ですが、留学当初の相手の言葉が理解できない、自分の意見もうまく伝えられなかったあの時より、日本語を話せる状況はコミュニケーションを楽に取れることで一段階憂いがありません。何とかなると思えるようになりました。

また、今はまだ海外と関わる業務には携わっていませんが、将来異動先などで現地で学んだ中国語も生かせたらいいなと思っています。

二つ目は大学4年次に行った卒業研究です。卒業研究では山菜などの秋田の食材が認知症予防に活用できないか研究していました。研究していた内容が直接現在の仕事に関わってくるかと言われると、そうではないかもしれませんが。ですが、実験をし、そのデータを整理し、考察する作業を繰り返すうちに、データから論理的考えよう、限られた時間で効率的に作業しようとする癖がつかしました。公務員も限られた時間の中で、法律と現況という各々のデータを照らし合わせ判断し、事務処理を行います。研究に向かう姿勢、考え方は日々行動するときの役に立っていると感じています。

以上のように、秋田大学での学びは当時私が思っていた以上に今の私に繋がっています。

大学は「分からない」を追求する場所であり、「分からない」が出発点だ、という教授の言葉を今でも覚えています。働き始めてまだ3年目ですが、社会も分からないことばかりです。日々の講義・研究の中で分からないと向き合うことは、大学の外で「分からない」と対峙した時、必ず自分の助けとなるのではないのでしょうか。



【卒業生からのメッセージ⑧】

悩みながら学んでいくこと

特定医療法人 荘和会 菅原病院 三船夏実（2016年3月心理教育実践専攻修了）

私は他大学にて4年間心理学を学んだ後、心理士の道を志して秋田大学大学院の教育学研究科心理教育実践専攻心理教育実践コースに入学しました。人生の中の2年間、短いようではありますが、現在、社会に出て働く中で大きな影響を与えてくれています。今回は、「みなおと」寄稿のお話をいただき、自分でも修士の経験を振り返るきっかけとなると思い、筆を執らせていただきました。

心理士になることを考え始めたのは、学部生のころ、心理学の教授が行っていた、定時制高校での「こころの授業」のアシスタントを務めたことがきっかけでした。その定時制高校では、不登校気味の子、ちょっとヤンキーっぽい子、さまざまなルーツを持つ国際児・・・といろんな子たちがいました。小グループに分かれて、ジェスチャーだけで行う伝言ゲームやすごろくをもとにしたお話のゲームなど、さまざまな即興ゲームを行う際の補助として定期的に参加していました。ヤンキーっぽい子が意外と面倒見良く無口な子の世話を焼いてくれたり、仲良しグループのメンバーがどんどん移り変わっていったり学校を訪れるたびに新たな発見がありました。そんななかかわりを持たせていただいている中で、「心理の仕事って楽しそう」と、心理士資格を取得するために大学院への進学を考えるようになりました。

実際に大学院へ進学してみて、今の仕事をするのに役立ったと感じていることを3つ紹介します。

まずはプレゼンテーションの授業です。心理学の論文を一つ選び、その執筆者になったつもりでパワーポイントなどによるプレゼンテーション形式に資料をまとめなおして発表し、論文に対する質疑応答を担当するというものでした。私はこれが大の苦手で、同級生やゼミの先生、先輩方にもかなり手伝っていただきました。ただ、この授業での学びが、現在の仕事の中で患者さんや利用者さんに疾病教育などを行う上で、「自分の考えを伝わりやすい形にまとめる」のに役に立っています。

次に、心理検査の実施方法とその所見をまとめる授業です。同級生と相談しながら、ああでもないこうでもないデータから得られる様々な知見をまとめて、一人の人の特徴を捉えていく作業を行っていきました。いかにその方の日常生活の事象と結び付けながらわかりやすく書くか、みんなで夜遅くまで悩みながらまとめたことを覚えています。この授業で習ったことをまとめたファイル

は、仕事で患者さんに心理検査を実施し所見を書くときに、今でも見返しながら活用させてもらっています。

最後に、各種県内機関での実習です。病院実習をはじめとして、児童相談所や障がい者支援施設、縁あって刑務所や裁判所の見学にも行かせていただきました。実際にそこで心理士がどのように動いているか、どのような場所なのか、それらにかかわりのある患者さんがいらっしやったときにはとてもイメージをしやすいです。また、知っている方がいるからこそ、患者さんに安心して説明や紹介ができるようになりました。

大学院での学びを経て、私は現在、県内の精神科病院で心理士として勤務しています。心理士という仕事のある種の特色ともいえるかもしれませんが、病院に限らず、心理士が独り体制の職場が多くあります。そのため、心理検査の所見の書き方や、カウンセリングのアプローチの仕方でも、心理士同士で相談できる場所がなかなか持たず、悩みを抱えることが多々あります。また、勤務して暫く経ち、心理士の業務拡充、そのための土壌作りから行わなければならない機関もあります。

「こうした方がよかったかな…」「あれはあまり良くなかったかな…」と、日々自分の仕事の仕方を振り返りながら患者さんと関わらせてもらっています。大学院は修了しましたが、縁あってお声がけいただいた、修了生を中心とした勉強会で仲間と相談したり文献から新たな知見を得たりしながら、自分でやることを模索する毎日です。また、社会人になって、自分の調子を保つために趣味を楽しむことの大事さも感じています。食べ歩きや本屋巡りなど昔から好きだったことだけでなく、猫を飼ったり、苦手だった運動をはじめたりと、今まで挑戦してこなかったことに取り組むことで、思考の幅が広がるとともに、思いがけない気づきが得られることもありました。学生を卒業して六年を過ぎるところですが、今よりもより良く、日々是精進、の気持ちでこれからも学んでいきたいと思っています。



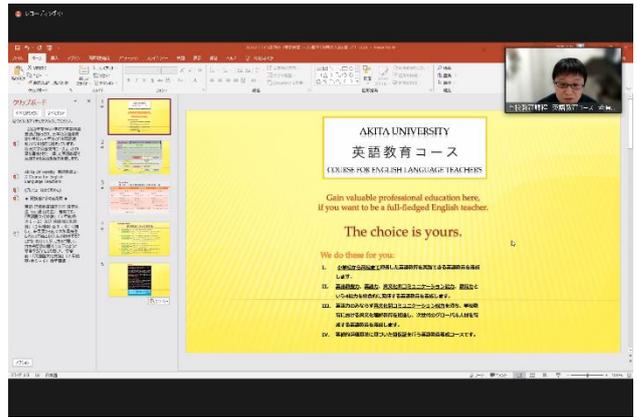
12/2 オンライン学部オープン説明会を開催

初めての取り組みとして、12月2日17時～18時に1回目のオンライン学部オープン説明会をZoomにより開催しました。県内外の高校生54名の参加がありました。



学校教育課程、地域文化学科それぞれのブレイクアウトルームを設定し、同時並行で課程・学科説明を行い、学校教育課程では、コース等別の質問コーナーや模擬授業を実施しました。

1月19日に2回目を開催する予定です。



新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組み

【全国】

- 12/1：医療従事者を対象として3回目のワクチン接種が始まる。
- 12/8：国内のワクチン接種の1回目を終了した人が職域接種を含めると1億人を超える。
- 12/30：全国の新規感染者数が516人となり、500人を超える。500人を超えるのは10/16の506人以来。11/22の50人が底。

【学部・研究科】

- 12/1：院生と4年次・3年次学生にのみ認めていた、研究・学習目的による自習室滞在を1・2年次学生にも拡大。

* 一部不明・不正確な箇所があります

【附属学校園】

- 12/1-3：附属中学校、日光方面へ修学旅行。附属特別支援学校高等部、青森・岩手方面へ修学旅行。



発行 **秋田大学教育文化学部／教育学研究科**

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1 TEL 018-889-2509 FAX 018-833-3049

教育文化学部・教育学研究科HP <http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>

学部研究科通信「みなおと」バックナンバー⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_magazin.html

教職大学院通信「暁鐘の音(かねのね)」⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_magazin.html

* 誌名「みなおと」の由来である秋田県女子師範学校校歌(1910年制作)を聴くことができます。

http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_symbol.html をご覧ください。